

第二問(現代文)解答例 ※文系のみ

問一 △心理主義は、思想の強靱さには及ばないものの、高潮の頂点において現実には必ず敗北する思想とは異なり、永遠に滅びないため、心理主義そのものの限界を見届けることもふくめ、思想の限界を見届けて、観念が思想まで行きつかぬよう歯止めをかける役割をもつものであるという意味。(5点)

問二 △戦争指導者はあらゆる方法で暴力を正当化してきた。また、知識階級の者たちは自分たちの反戦的感情に進歩的思想を結びつけている。だが結局のところ、思想などというものはなく、彼らが思想としていたものは暴力的現実の正当化にすぎず、その意味で戦争指導者と同質であると考えたから。(5点)

問三 △利休が秀吉と対立した理由が、彼の「歌論」に基づいた芸術精神が秀吉の俗人ぶりに反感を覚えたからではなく、堺商人の血の負けじ魂が、秀吉の権力に対抗意識を湧かせたからにすぎないということ。(5点)

問四 △政治は権力であり、秀吉がその典型的な存在であることに気づかず、甘い文化意識をもって政治権力を正そうとした結果、秀吉と個人的な確執をもって対立することに終わった、という意味。(4点)

問五 △心理主義は思想の強靱さには勝てないという限界があるのに気づかず、むしろ思想を持っているかのように振る舞って、そうした自らの愚かな様子に気づけずにいる人々は、千利休だけでなく、現代の知識階級にも多い、ということ。(5点)